

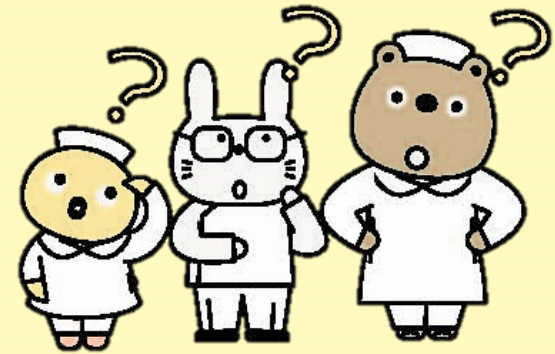
離床インストラクター
離床アドバイザー
模擬試験解答

問題1.

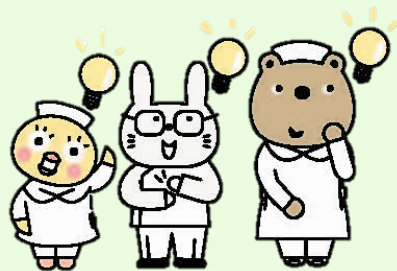
肺炎で入院中の90代女性。離床時に顔面蒼白を認め
た。血液データにおいて貧血の有無を把握するため必要
なデータで適切でないものの組み合わせをひとつ選べ。

- a.ヘマトクリット
- b.ヘモグロビン濃度
- c.平均赤血球容積(MCV)
- d.HbA1c
- e.血糖

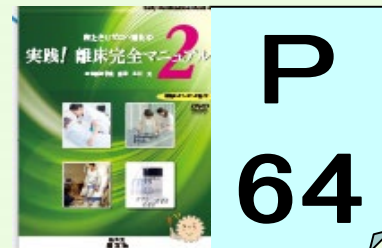
- 1.a,b 2.b,c 3.c,d 4.d,e 5a,c



回答



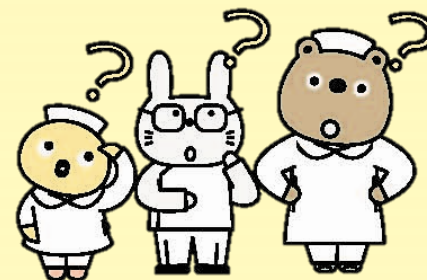
答え: 4.d,e



- a.ヘマトクリット (Ht)…全血液中の占める赤血球の割合。
基準値を下回ると**貧血**を疑います。
- b.ヘモグロビン濃度 (Hb)…赤血球に含まれるたんぱく質の量。
基準値以下で**貧血**を疑います。
- c.平均赤血球容積(MCV) …1個の赤血球の平均の容積。
基準値以下で**貧血**を疑います。
- d.ヘモグロビンA1c(HbA1c) …ブドウ糖がヘモグロビンに結合した割合。
- e.血糖値…血液中のブドウ糖の量。

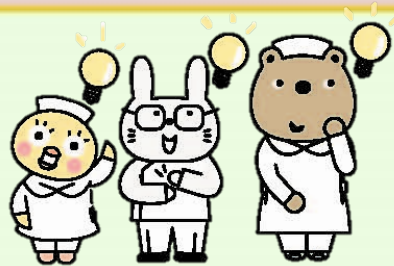
問題2.

脳血管障害患者の離床を検討中である。
正しいものをひとつ選べ。



- 1.脳循環自動調節能は収縮期血圧が50mmHg～150mmHgの時に脳血流が一定に保たれるため、血圧に注意して離床を進める。
- 2.くも膜下出血患者は発症後2週間は脳血管攣縮期で再出血の可能性があるため、血圧に注意して離床を進める。
- 3.NIHSS(National Institutes of Health Stroke Scale)は11項目合計42点で構成され、点数が23点以上の場合には軽症のため、離床開始を検討する。
- 4.被殻出血は大脳基底核の障害であり、運動麻痺だけでなく動作の遂行機能にも障害が生じることがある。
- 5.脳梗塞後遺症患者の意識レベルがGCS合計8点(E1V1M6)と重症であったため覚醒レベルが上がるまで離床を留めた。

回答



答え:4.



P
39

1.脳循環自動調節能は×**収縮期血圧**が50mmHg～ 150mmHgの時に脳血流が一定に保たれる。

⇒平均血圧

2.くも膜下出血患者は発症後2週間は脳血管攣縮期で×**再出血**の可能性
がある。

⇒脳梗塞

3.NIHSS (National Institutes of Health Stroke Scale) は11項目合計42点で構成され、点数が23点以上の場合は×**軽症のため離床開始を検討**する。

⇒重症なので離床を開始時期を再検討します。

5.脳梗塞後遺症患者の意識レベルがGCS合計8点(E1V1M6)と重症であったため△**覚醒レベルが上がるまで離床を留めた**。

⇒意識以外の評価も考慮して離床を検討。

問題 3.

慢性腎不全の70歳女性。既往に高血圧がありACE阻害薬を内服している。ACE阻害薬(血圧降下薬)の直接関係する副作用をアセスメントする方法としてもっとも適切なものの組み合わせをひとつ選べ。

- a.四肢のふるえを視診で評価する。
- b.日々の気分や抑うつ傾向を担当スタッフから聴取する。
- c.立ち上がる際に、意識状態や膝折れの有無を問診や視診で評価する。
- d.視診や問診にて咳こむことが多くなったか確認する。
- e.聴診器で背部の呼吸音を聴診する。

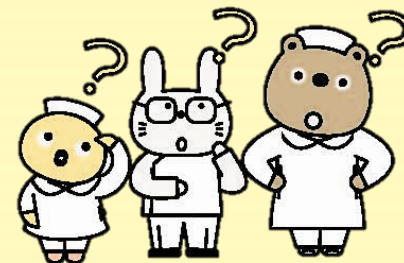
1.a,b

2.b,c

3.c,d

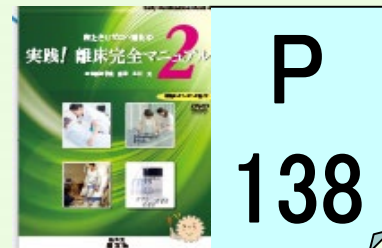
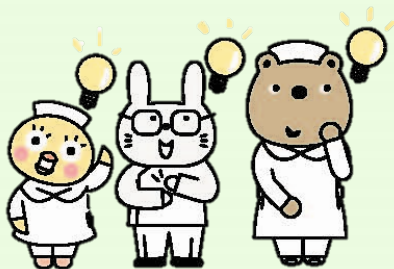
4.d,e

5.a,c



回答

答え: 3.c,d



ACE阻害薬は血管の収縮を抑制し降圧作用をもたらします。
主な副作用として、咳嗽、高カリウム血症(不整脈)があります。

c.立ち上がる際に、意識状態や膝折れの有無を問診や
視診で評価する。(→めまい、ふらつき)

d.視診や問診にて咳こむことが多くなったか確認する。(→咳嗽)

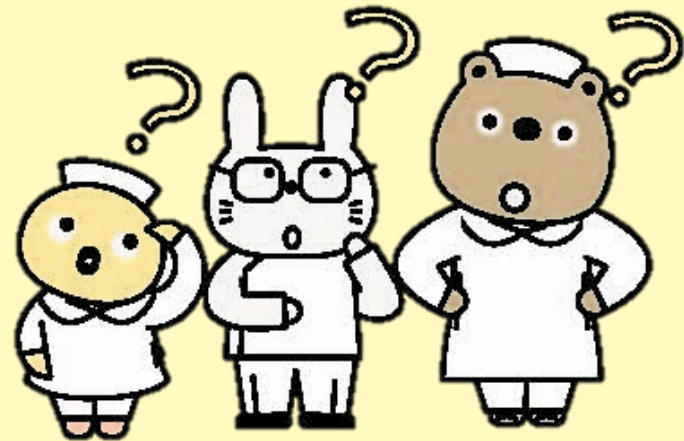
ブラジキニンやサブスタンスPの分解抑制によって生じるといわれています。
就寝前の投与またはCa拮抗薬・利尿薬の併用で、空咳の症状が良くなるこ
ともあります。

嚥下反射・咳反射を改善しますので、誤嚥性肺炎の予防の報告もあります。

問題 4.

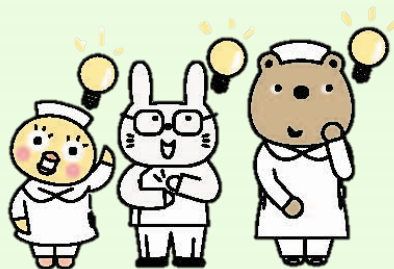
COPD急性増悪にて入院中の80代男性。気管内吸引をするも痰の性状が硬く、なかなか引くことが出来ないため、ネブライザーを検討している。大気呼吸下において、吸入された空気の相対湿度が100%になる部位をひとつ選べ。

1. 咽頭
2. 喉頭
3. 気管分岐部
4. 気管支
5. 肺胞



回答

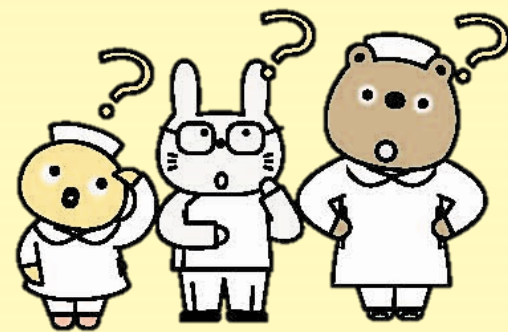
答え：3.



吸入された空気は上部気道を通過していくうちに
気道粘膜から加温加湿され、気管分岐部付近で
はほぼ 37°C 、相対湿度100%になります。

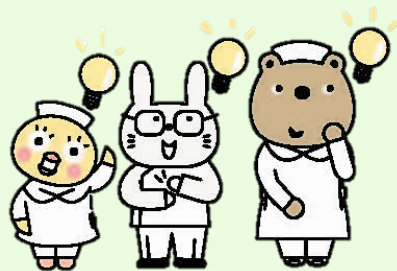
問題 5.

画像所見に関する所見のうち誤っているものをひとつ選べ。



1. 大腿骨頸部骨折にてX線画像にて小転子が転移していると予後不良である。
2. CT 画像は脳の虚血性病変を判断しやすい。
3. 肺の繊維化がすすむとX線所見で主気管支は病側へ偏移する。
4. 心エコー所見でLVDd(左室拡張期末期径)からLVDs(左室収縮期末期径)を引いた値が15mm以上で収縮障害を疑う。
5. 腹部 X 線画像において観察されるニホー像は姿勢の影響を受ける。

回答



答え：2.

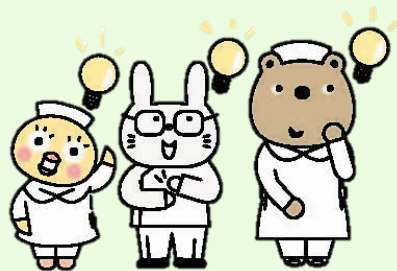
1. 大腿骨頸部骨折にてX線画像にて小転子が転移していると予後不良である
2. CT 画像は脳の × 虚血性病変を判断しやすい。 ⇒ 出血性
3. 肺の繊維化がすすむとX線所見で主気管支は病側へ偏移する。
4. 心エコー所見で LVDd(左室拡張期末期径)からLVDs(左室収縮期末期径)を引いた値が15mm以上で収縮障害を疑う。
5. 腹部 X 線画像において観察されるニボル像は姿勢の影響を受ける。

問題 6. 冠動脈バイパス術を行った 80 歳の男性。術後 1 日目はトイレまで歩行し、正常洞調律で経過。術後 2 日目、下記の不整脈が出現していた。事前情報より術前にも同様の不整脈が出ていた。自覚症状として軽い息切れ感と動悸を訴える。離床時の判断として最も正しいものをひとつ選べ。



1. この波形は PVC 2 連発にあたる。術前より認める不整脈であるため昨日より少し距離を延ばして歩行した。
2. この波形は PVC 2 段脈にあたる。術前より認める不整脈であるため昨日より少し距離を延ばして歩行した。
3. この波形は PVC 2 連発にあたり、息切れを認めるためベッド周辺の ADL 程度に離床をとどめた。
4. この波形は PVC 2 段脈にあたり、息切れを認めるためベッド周辺の ADL 程度に離床をとどめた。
5. LOWN 分類では A4 以下にあたるため問題ないと判断し、昨日より少し距離を延ばして歩行した。

回答



答え：4.



上記心電図波形はPVC2段脈の波形である。
自覚症状として軽い息切れ感と動悸の訴えがあるため
離床をADLの維持に努める回答が正解。

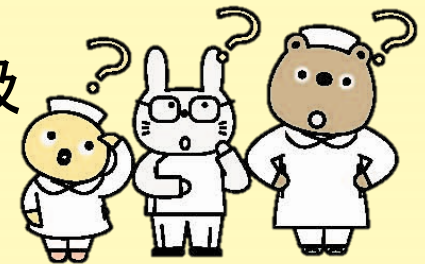
離床プレアドバイザー 模擬試験解答

問題 1.

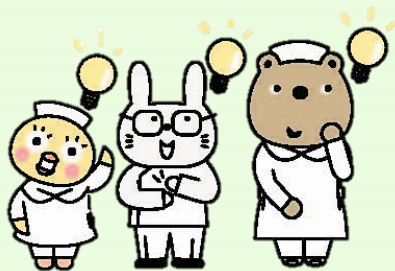
呼吸器疾患患者の離床の開始を考慮している。下線を説明した用語として不適切なものをひとつ選べ。

COPD 急性増悪で入院中の 80 代男性。離床を促す前の評価としてアセスメントを行った。A 呼吸数は 1 分間に 26 回と増加していた。胸部に視診すると B 吸気時に胸がへこむ現象が認められ、胸がへこむと腹部がふくらみ、C 胸部が膨らむと腹部がへこむ呼吸が認められた。次に D 胸部に触れると振動を感じ、中枢気道の分泌物の貯留を感じた。次に胸背部を聴診器で聴診をすると E 呼気で高い音が聴取された。

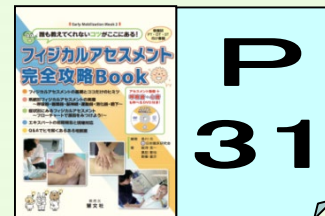
- 1.A—頻呼吸 2.B—リラクション 3.C—シーソー呼吸
4.D—ラリング 5.E—捻髪音 (fine crackle)



回答



答え：5.



A 呼吸数は1分間に26回と増加していた。⇒1分間に25回以上の呼吸(頻呼吸)

胸部に視診すると B 吸気時に胸がへこむ現象が認められ、⇒リトラクション

胸がへこむと腹部がふくらみ、C 胸部が膨らむと腹部がへこむ呼吸

⇒シーソー呼吸

D 胸部に触れると振動を感じ、中枢気道の分泌物の貯留を感じた。

⇒ラトリング

次に胸背部を聴診器で聴診をすると E 呼気で高い音が聴取された。

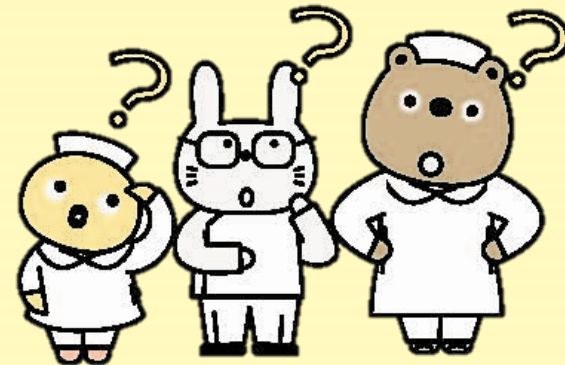
⇒捻髪音 (fine crackle)は吸気で聞こえる。

⇒気道が閉塞した場合に呼気で聞こえる。(笛声音〈Wheezes〉)

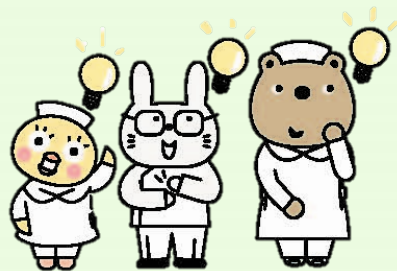
問題 2.

離床のリスクのひとつに薬剤の影響による転倒・転落がある。使用薬剤と、転倒・転落のリスクについて、最も関係が薄いものをひとつ選べ。

1. 降圧薬
2. 利尿薬
3. 糖尿病治療薬
4. 抗菌薬
5. 抗精神病薬



回答



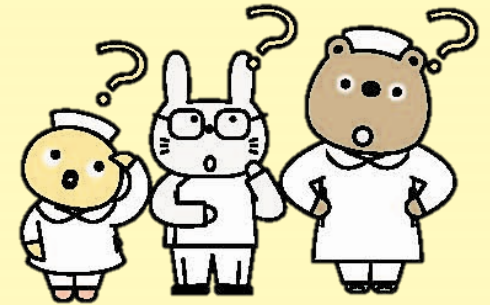
答え：4.

抗菌薬以外の選択肢の薬剤は副作用として、めまいやふらつき、脱力感により、転倒・転落のリスクがあがる。

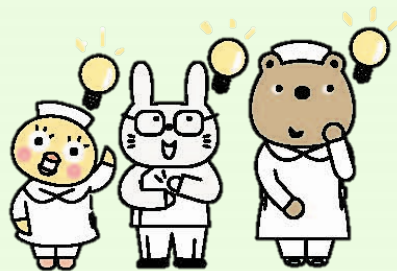
問題 3.

80代男性。腰椎圧迫骨折で入院し、離床を促そうとするが、低栄養が示唆される。低栄養の所見として最も関係が薄いものをひとつ選べ。

1. 1ヶ月の体重減少量が5%以上である。
2. BMI(kg/m²) が 19.0 を下回っている。
3. アルブミン (Alb) が 3.5(g/dL) 未満である。
4. レチノール結合タンパク (RBP) が 3.6(g/dL) 未満である。
5. 握力の 10% 以下の低下がある。



回答



答え：5.

5. 握力の 10% 以下の低下がある。
以外は低栄養のリスクが高い所見
である。

問題 4.

不整脈と離床の関係で誤っているものをひとつ選べ。

1.心室細動 (VF)

—離床は行わない。

2.3 度房室ブロック (ペースメーカー挿入)

—離床は行わない。

3.慢性心房細動 (AF)(投薬コントロール中)

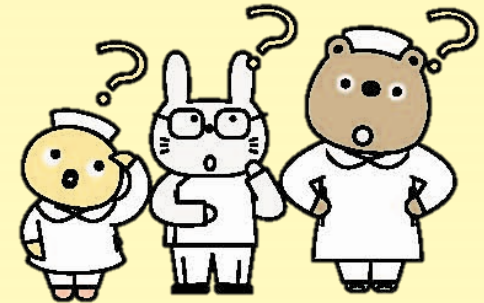
—離床可能。

4.心室性期外収縮 (PVC)Lown 分類「4B」

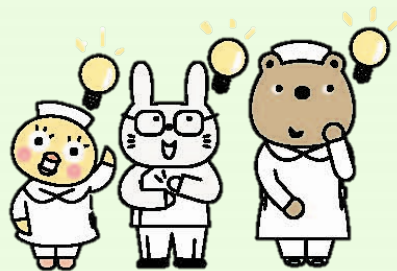
—離床は行わない。

5.心室頻拍 (VT)

—離床は行わない。



回答



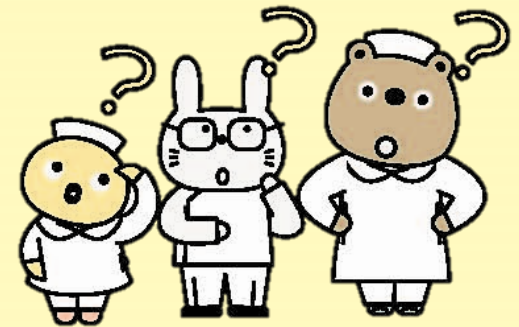
答え：2.

臥位で「心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン」では、3度房室ブロックでかつ「ペースメーカー非挿入」の場合、離床は禁忌となっている。

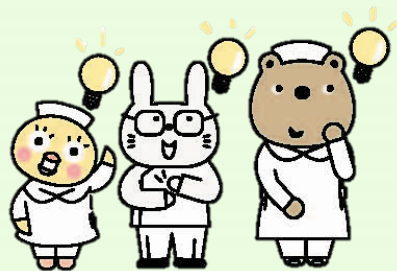
問題5.

離床前に背臥位の状態で患者の頸部を観察したところ、前日は認められた頸静脈の拍動が認められなかった。考えられる状態として正しいものをひとつ選べ。

1. 出血性ショック
2. 右心不全
3. 頸静脈狭窄症
4. 収縮性心膜炎
5. 三尖弁閉鎖不全症



回答



答え：1.

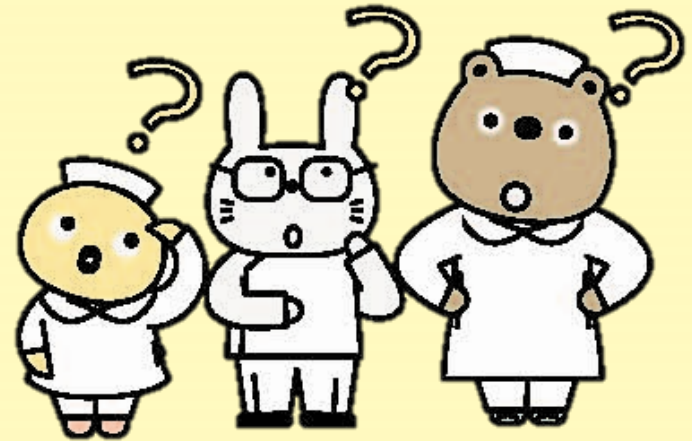
臥位であれば、健常者でも頸静脈の拍動は認める。ヘッドアップ45°以上、座位で頸静脈の拍動を認める場合は、循環血液量が過多である。右心房圧が高い、中心静脈圧が高い状態を指す。設問は、臥位で頸静脈の拍動を認めない場合であるため、循環血液量が減少する出血性ショックを指す。

問題 6.

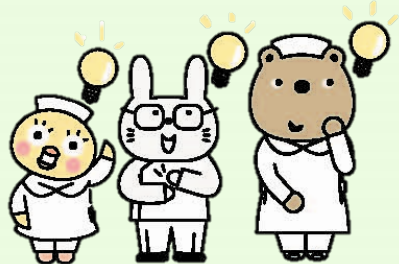
心不全で入院中の患者を端座位に離床したところ、起立性低血圧を示した。考えられる原因として誤っているものの組み合わせで適切なものをひとつ選べ。

- a. 血漿量の減少
- b. 下肢骨格筋の筋ポンプ作用の低下
- c. Ca拮抗薬内服量の減量
- d. 尿量低下
- e. 動脈圧受容反射の減衰

1. a,b 2. b,c 3. c,d 4. d,e 5. a,c



回答



答え：3.



起立性低血圧を示す原因として、

- ・動脈圧、心肺圧受容器反射の減弱
 - ・下肢筋力の低下
 - ・血管内皮機能の低下
 - ・循環血流量の低下
- がある。

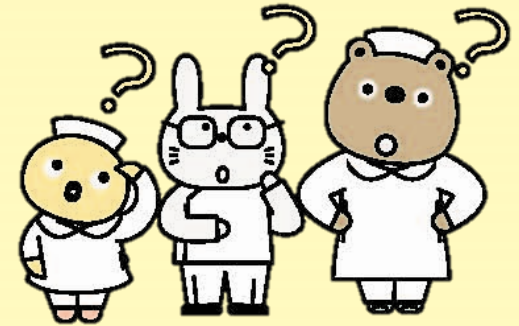
Ca拮抗内服薬の減量、尿量の低下は、
循環血液量が増加するので誤り。

問題7.

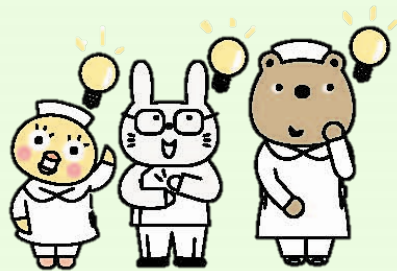
慢性心不全の80代男性。在宅療養中で訪問リハビリテーションを利用している。患者の離床前に循環のフィジカルアセスメントを実施した。

下記のフィジカルアセスメントより得られる情報のうち誤っているものをひとつ選べ。

1. 視診・触診—心不全徴候の有無
2. 触診—低灌流所見の有無
3. 心音の聴診—心内血栓の有無
4. 視診・触診—深部静脈血栓症(DVT)徴候の有無
5. 触診—収縮期血圧80mmHg以上の拍動



回答



答え：3.

心雑音の聴取により、心臓弁膜症は疑いをかけられるが、心内血栓は確認することが出来ない。